

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	81	道路台帳索引番号	W-14	施設管理者	葦崎市
路線名	市道穂坂 51 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	倭文橋
施設の所在地	字宮久保字隆宮 6050 番地 3 先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	床版橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(2)t	橋下条件	朝穂堰

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)		2.5			幅員(車道幅員)		5.4																																		
	施設の構造等	上部工形式	鋼製(使用鋼材)		別紙図面のとおり		塗装使用の有無		別紙図面のとおり																																		
			支承型式		別紙図面のとおり		落橋防止の有無		別紙図面のとおり																																		
		橋台工形式	逆T式橋台			基礎型式																																					
		橋脚工形式				海岸からの距離		—																																			
施設の状態等の概要	点検診断日	令和4年11月																																									
	調査結果	伸縮装置に起因した漏水が両橋台にて確認された。状況を観察した中で対策されたい。 また、A1橋台下流側に見られる損傷は防護柵支柱部分より発生しており、安全性は確保されていない。 防護柵を基準に適合したものに替えることも検討した中で補修を行った方が良い。																																									
	健全性の診断結果	I (健全)		道路橋の機能に支障が生じていない状態。																																							
長寿命化計画の内容	計画期間	令和4年度～令和12年度																																									
	内容	5年に1回の定期点検を行う。																																									
	実施予定時期	令和9年度																																									
	対策費用 (百万円:概算)	1																																									
<table border="1"> <tr> <th></th><th>令和4年</th><th>令和5年</th><th>令和6年</th><th>令和7年</th><th>令和8年</th><th>令和9年</th><th>令和10年</th><th>令和11年</th><th>令和12年</th><th></th></tr> <tr> <td>対策費用(百万円)</td><td>0.5</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>0.5</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>対策の内容・実施時期</td><td>定期点検</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td>定期点検</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>												令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年		対策費用(百万円)	0.5					0.5					対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				
	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年																																		
対策費用(百万円)	0.5					0.5																																					
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検																																					
備 考 ○適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。 ○予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。																																											

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	82	道路台帳索引番号	Y-7	施設管理者	荊崎市
路線名	市道穂坂 54 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	古森上橋
施設の所在地	字柳平字古森 856 番地 1 先	起点からの距離		建設年度	2000
供用年度	2000	種別	鋼橋	型式	桁橋(H 桁)
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)		橋下条件	権現沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	11.3		幅員(車道幅員)	5.2
	施設の構造等	上部工形式	桁橋(H 桁)			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設の状態等の概要	点検診断日	令和6年11月	
	調査結果	支承の一部に腐食が見られることから、速やかに補修を行うことが望ましい。また、支承に土砂が堆積していることから除去することが望ましい。 橋台に土砂が堆積していることから除去することが望ましい。 舗装に5mm以上のひびわれが多く見られることや伸縮装置の土砂詰まりなどが見られることから、維持工事での対応が望ましい。	
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	5 年に 1 回の定期点検を行う。定期点検
	実施予定時期	令和 11 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)			0.5					0.5		
対策の内容・実施時期			定期点検					定期点検		

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	83	道路台帳索引番号	Y-8	施設管理者	荊崎市
路線名	市道穂坂 55 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	古森下橋
施設の所在地	字柳平字久保の後 755 番地 1 先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	鋼橋	型式	桁橋(H 桁)
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(9)t	橋下条件	権現沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	7.5		幅員(車道幅員)	4.3
	施設の構造等	上部工形式	桁橋(H 桁)			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設の状態等の概要	点検診断日	令和6年11月	
	調査結果	支承が著しく腐食していることから、速やかに補修を行うことが望ましい。また支承に土砂が堆積していることから維持工事にて除去することが望ましい。 橋台に土砂が堆積していることから除去することが望ましい。	
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	5 年に 1 回の定期点検を行う。定期点検
	実施予定時期	令和 11 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)			0.5					0.5		
対策の内容・実施時期			定期点検					定期点検		

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	10.5				幅員(車道幅員)		4.8		
	施設の構造等	上部工形式	桁橋(H 桁)								
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり		塗装使用の有無		別紙図面のとおり			
			支承型式	別紙図面のとおり		落橋防止の有無		別紙図面のとおり			
		橋台工形式	逆T式橋台				基礎型式				
橋脚工形式					海岸からの距離		—				
施設の状態等の概要	点検診断日	令和 6 年 11 月									
	調査結果	橋台に遊離石灰を伴うひびわれが多数見られることから、速やかに補修を行うことが望ましい。水が集まる A1 橋台のみに損傷が現れていることから ASR の疑いも考えられる。 支承全体に腐食および防食機能の劣化が見られ、沓座モルタルの欠損もみられることから、速やかに補修を行うことが望ましい。 舗装に段差が見られることから、維持工事での対応が望ましい。 その他、軽微な損傷が見られるため、状況に応じて補修を行なうことが望ましい。									
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。								
長寿命化計画の内容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度									
	内容	5 年に 1 回の定期点検を行う。定期点検									
	実施予定時期	令和 11 年度									
	対策費用 (百万円:概算)	0.5									
		令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)				0.5					0.5		
対策の内容・実施時期				定期点検					定期点検		

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	85	道路台帳索引番号	U-12	施設管理者	荊崎市
路線名	市道穂坂 58 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	三之蔵橋
施設の所在地	三之蔵字山崎 5108 番地 1 先	起点からの距離		建設年度	1978
供用年度	1978	種別	鋼橋	型式	桁橋(H 桁)
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(14)t	橋下条件	三之蔵沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	50.7		幅員(車道幅員)	4.8
	施設の構造等	上部工形式	桁橋(H 桁)			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	逆T式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設の状態等の概要	点検診断日	令和6年11月	
	調査結果	下部工に遊離石灰を伴うひびわれが多数見られることから、速やかに補修を行うことが望ましい。その他、不法占拠が各所に見られることから、維持工事での対応が望ましい。 舗装に段差が見られること、伸縮装置や支承周りに土砂詰まりが見られることなどから、維持工事での対応が望ましい。	
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	5 年に 1 回の定期点検を行う。定期点検
	実施予定時期	令和 11 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)			0.5					0.5		
対策の内容・実施時期			定期点検					定期点検		

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	86	道路台帳索引番号	T-12	施設管理者	荊崎市
路線名	市道穂坂 60 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	山崎橋
施設の所在地	字三之蔵字横吹 4892 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	桁橋(T 桁)
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(14)t	橋下条件	三之蔵沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	8.1		幅員(車道幅員)	5.1
	施設の構造等	上部工形式	桁橋(T 桁)			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和6年11月	
	調査結果	主桁、床版に多数の広範囲な剥離・鉄筋露出が見られることから、速やかに補修を行うことが望ましい。橋台に広範囲な欠損や剥離、ひびわれが見られることから、速やかに補修を行うことが望ましい。また、各所において、土砂堆積が見られるため、維持工事で除去することが望ましい。	
	健全性の 診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	5 年に 1 回の定期点検を行う。定期点検
	実施予定時期	令和 11 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)			0.5					0.5		
対策の内容・実施時期			定期点検					定期点検		

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	87	道路台帳索引番号	U-11	施設管理者	荊崎市
路線名	市道穂坂 60 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	三之蔵橋
施設の所在地	三之蔵字横吹 5167 番地先	起点からの距離		建設年度	1980
供用年度	1980	種別	鋼橋	型式	桁橋(H 桁)
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	14t	橋下条件	三之蔵沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	7.6		幅員(車道幅員)	5.2
	施設の構造等	上部工形式	桁橋(H 桁)			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設の状態等の概要	点検診断日	令和6年11月	
	調査結果	支承の腐食が著しいことから、速やかに補修を行うことが望ましい。 舗装の段差やひびわれが見られること、防護柵のボルトの脱落が見られることから、維持工事での対応が望ましい。 その他、軽微な損傷が見られるため、状況に応じて補修を行なうことが望ましい。	
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	
	実施予定時期	令和 11 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)			0.5					0.5		
対策の内容・実施時期			定期点検					定期点検		

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	90	道路台帳索引番号	S-13	施設管理者	韮崎市
路線名	市道穂坂 67 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	三之蔵沢上橋
施設の所在地	三之蔵字日影平 4134 番地 1 先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)		橋下条件	三之蔵沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	9.4		幅員(車道幅員)	5.2
	施設の構造等	上部工形式	床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	逆T式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設の状態等の概要	点検診断日	令和3年9月	
	調査結果	・上部工の床版に目立った変状は見られず、概ね健全な状態を保っている。・A1 橋台上流側の沓座に堆積している土砂は点検の障害になるだけでなく、水分を含んで部材の劣化を助長する要因となるため除去作業が望まれる。その際は清掃等の一時的な対応ではなく、土留めを設置するなどの抜本的な対策が望まれる。・路面の地覆脇に見られる土砂堆積や草の自生も路面排水の滞水原因となり、下方に水分を供給して劣化を助長する要因になるため維持工事による定期的な管理が望まれる。	
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和4年度～令和12年度
	内容	5年に1回の定期点検を行う。定期点検
	実施予定時期	令和8年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)					0.5					
対策の内容・実施時期					定期点検					

備 考	
○適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。 ○予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。	

※個々の施設毎に作成

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	91	道路台帳索引番号	R-14	施設管理者	荊崎市
路線名	市道穂坂 68 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	お寺橋
施設の所在地	三之蔵字西ノ前 3762 番地先	起点からの距離		建設年度	1984
供用年度	1984	種別	鋼橋	型式	桁橋(H 桁)
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	14t	橋下条件	三之蔵沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	15.4		幅員(車道幅員)	5.3
	施設の構造等	上部工形式	桁橋(H 桁)			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	逆T式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和3年12月	
	調査結果	・G1 桁終点側(可動側)の桁端部がパラペットに接触している。また上部の伸縮装置もプレート同士が接触している。点検が夏季に近く遊間が最小となる時期の接触であることや、現状、支承部に傾きや沓座モルタルの欠損などの異常が見られないことなどから、構造的な重症度リスクは低いと考える。ただし、パラペットとの接触部を介して漏水が直接桁や支承に流れて腐食を助長したりするなど二次的な劣化要因になることも考えられるため、端部切断等により適切な遊間を確保しておくことが望ましい。・A2 橋台の堅壁に繁茂しているツタは点検時の妨げに	
	健全性の 診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和4年度～令和12年度
	内容	補修工事を実施。 5年に1回の定期点検を行う。 定期点検
	実施予定時期	令和8年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)					0.5					
対策の内容・実施時期					定期点検					

備 考	
-----	--

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	92	道路台帳索引番号	R-16	施設管理者	葦崎市
路線名	市道穂坂 71 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	横道橋
施設の所在地	宮久保字石原場 2777 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	アーチ橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(2)t	橋下条件	水路

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	2.5		幅員(車道幅員)	2.8
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
	橋脚工形式			海岸からの距離	—	

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和4年11月	
	調査結果	舗装のひびわれ幅が大きく、またひびわれから植生も確認できるため、状況に応じて補修を行う必要がある。 また、床版には豆板が確認されているが、軽微であるため経過観察とする。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和4年度～令和12年度
	内容	5年に1回の定期点検を行う。定期点検
	実施予定時期	令和9年度
	対策費用 (百万円:概算)	1

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)	0.5					0.5				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考	
-----	--

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

※個々の施設毎に作成

橋梁一覧
(個票)

個別施設整理番号	93	道路台帳索引番号	P-16	施設管理者	荊崎市
路線名	市道穂坂 73 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	神之木橋
施設の所在地	宮久保字神の木 2586 番地先	起点からの距離		建設年度	1975
供用年度	1975	種別	PC 橋	型式	桁橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	14t	橋下条件	中央自動車道

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	35.6		幅員(車道幅員)	4.8	
	施設の構造等	上部工形式	桁橋				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり	
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	逆T式橋台			基礎型式	
橋脚工形式				海岸からの距離	—		
施設の状態等の概要	点検診断日	令和 7 年 11 月					
	調査結果	上部工、下部工ともに概ね補修が行われているが、一部補修を行っていない箇所がある。 1径間目の起点側の横桁下面のひびわれは、予防保全の観点から速やかに補修する必要がある。 また、A1 橋台の橋座面の土砂堆積、袖擁壁の落葉堆積は、維持工事で対応することが望ましい。					
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度					
	内容	5 年に 1 回の定期点検を行う。定期点検					
	実施予定時期	令和 5 年度補修完了 令和 12 年度					
	対策費用 (百万円:概算)	60.5					

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)		55		0.5					0.5	
対策の内容・実施時期		補修工事		定期点検					定期点検	

備 考
○適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。 ○予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。 ○令和5年度補修完了

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	94	道路台帳索引番号	P-16	施設管理者	荊崎市
路線名	市道穂坂 75 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	出口橋
施設の所在地	三之蔵字出口 3499 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	PC 橋	型式	床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(6)t	橋下条件	三之蔵沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	11.4		幅員(車道幅員)	4.6
	施設の構造等	上部工形式	床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和3年12月	
	調査結果	・PC 桁の間詰め部全体に錆汁混じりの著しくつらら状になった遊離石灰の滲出が見られる。橋面などから水分が供給されていると考えられ、横締め鋼材の腐食などが懸念される状況である。また、G2～G4 桁下面の起点側に生じている橋軸方向のひびわれは、内部鋼材の腐食膨張に起因するもの、あるいは塩害や DEF（エトリンガイトの遅延生成）、ASR（アルカリシリカ反応）などによる劣化の可能性が考えられる。・上記損傷はいずれも橋面や側方などから供給される雨水やそれに溶けた凍結防止剤の塩分などの影響を受けて生じたものと推察されるため	
	健全性の 診断結果	Ⅱ （予防保全段階）	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	5 年に 1 回の定期点検を行う。定期点検
	実施予定時期	令和8年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)					0.5					
対策の内容・実施時期					定期点検					

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	95	道路台帳索引番号	Q-19	施設管理者	荊崎市
路線名	市道穂坂 77 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	権現沢中橋
施設の所在地	宮久保字三百水 783 番地 15 先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	床版橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(9)t	橋下条件	楯無堰

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	3.0		幅員(車道幅員)	4.9
	施設の構造等	上部工形式	鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—
施設の状態等の概要	点検診断日	令和4年11月				
	調査結果	防護柵に損傷があるものの緊急性を要するものではなく、経過観察でよい。また、床版に見られる床版ひびわれ、漏水・遊離石灰についても、軽微であるため経過観察でよい				
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。			
長寿命化計画の内容	計画期間	令和4年度～令和12年度				
	内容	5年に1回の定期点検を行う。定期点検				
	実施予定時期	令和9年度				
	対策費用 (百万円:概算)	1				

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)	0.5					0.5				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

個別施設整理番号	96	道路台帳索引番号	Q-19	施設管理者	荊崎市
路線名	市道穂坂 77 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	権現沢上橋
施設の所在地	宮久保字三百水 783 番地 85 先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	鋼橋	型式	桁橋(H 桁)
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(9)t	橋下条件	権現沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	12.5		幅員(車道幅員)	4.9
	施設の構造等	上部工形式	桁橋(H 桁)			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和3年12月	
	調査結果	・主桁は全体的に塗装の変色があり、継手部やフランジなどの一部に局部的な点錆が見られるが、比較的点錆の密度が小さく、表面錆の広がりも軽微であるため経過観察とする。・デッキプレート床版に特筆すべき損傷は見られない。張出端部のコンクリート部に見られる表面剝離はセメント分の溶出に伴う表面劣化や凍害によるスケーリング等が考えられるが軽微なもので前回点検から目立った変化も無い。・両橋台にひびわれ等の変状が見られるが、いずれも局部的で、前回点検から目立った変化も見られないため経過観察とする。・支承は全基とも全体的に点錆	
	健全性の 診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	5 年に 1 回の定期点検を行う。定期点検
	実施予定時期	令和8年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)					0.5					
対策の内容・実施時期					定期点検					

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

※個々の施設毎に作成

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	97	道路台帳索引番号	Q-14	施設管理者	荊崎市
路線名	市道穂坂 81 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	宮下橋
施設の所在地	三之蔵字西の前 3688 番地先	起点からの距離		建設年度	1976
供用年度	1976	種別	鋼橋	型式	桁橋(H 桁)
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(14)t	橋下条件	三之蔵沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	14.0		幅員(車道幅員)	8.2
	施設の構造等	上部工形式	桁橋(H 桁)			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	逆T式橋台		基礎型式	
橋脚工形式			海岸からの距離	—		
施設の状態等の概要	点検診断日	令和 3 年 9 月				
	調査結果	・床版下面に生じているひびわれは初期材齢時の乾燥収縮等に起因するものと推察する。遊離石灰の滲出も殆ど見られないため、ひびわれの貫通や路面からの水分供給等はないものと思われる。今後も著しい劣化進行の可能性は低いと判断するが、ひびわれが劣化因子の侵入経路となって部材の耐久性を低下させる要因になることも考えられるため、幅 0.2mm を超えるものは予防保全の観点から注入等により補修しておくことが望ましい。・下部工の胸壁天端や翼壁に生じている不規則な方向のひびわれは、初期凍害や ASR の可能性も考えられる。縦壁や胸壁の				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。			
長寿命化計画の内容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度				
	内容	5 年に 1 回の定期点検を行う。定期点検				
	実施予定時期	令和8年度				
	対策費用 (百万円:概算)	0.5				

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)					0.5					
対策の内容・実施時期					定期点検					

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	98	道路台帳索引番号	Q-15	施設管理者	荊崎市
路線名	市道穂坂 81 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	穂坂 81-1 号橋
施設の所在地	三之蔵字宮の下 3302 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(14)t	橋下条件	三之蔵沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	5.9		幅員(車道幅員)	7.9
	施設の構造等	上部工形式	床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
橋脚工形式			海岸からの距離	—		
施設の状態等の概要	点検診断日	令和 3 年 9 月				
	調査結果	・床版下面の中央付近と下流側において、打継部とみられる箇所から茶色を呈したつらら状の遊離石灰の滲出が見られる。また、遊離石灰の周囲に生じている表面的な剥離は、橋面から水分が供給されたことで生じたものと推察される。遊離石灰の滲出状況などから考えると打継部は上面に貫通して開口している可能性が高く、内部鉄筋の腐食も懸念されるため、予防保全的な対策として橋面防水等を行っておくことが望ましい。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。			
長寿命化計画の内容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度				
	内容	長寿命化対策として、5 年に 1 回の定期点検を行う。				
	実施予定時期	令和8年度				
	対策費用 (百万円:概算)	0				

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)					0.5					
対策の内容・実施時期					定期点検					

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	99	道路台帳索引番号	U-13	施設管理者	葦崎市
路線名	市道穂坂 88 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	穂坂 88-1 号橋
施設の所在地	宮久保字保久原 5638 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	床版橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(2)t	橋下条件	朝穂堰

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	4.6		幅員(車道幅員)	4.6
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
	橋脚工形式			海岸からの距離	—	

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和4年11月	
	調査結果	伸縮装置からの漏水が下部工に確認されている。若干、錆色を呈しているためアンカーバーの腐食が懸念される。状況に応じて伸縮装置交換等の対策を施す必要がある。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	5 年に 1 回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和9年度
	対策費用 (百万円:概算)	1

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)	0.5					0.5				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

※個々の施設毎に作成

橋梁一覧
(個票)

個別施設整理番号	101	道路台帳索引番号	Q-21	施設管理者	荊崎市
路線名	市道穂坂 92 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	穂坂 92-1 号橋
施設の所在地	上の山字寺平 2812 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	床版橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(0.9)t	橋下条件	楯無堰

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	2.5		幅員(車道幅員)	2.7
	施設の構造等	上部工形式	鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—
施設の状態等の概要	点検診断日	令和 4 年 11 月				
	調査結果	終点側伸縮装置部分に路面の凹凸が見られる。 段差 28mm と比較的大きな段差であるが、現場状況からみて車両が走行することはほぼないと考えられるため、維持工事に対応することが望ましい。				
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。			
長寿命化計画の内容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度				
	内容	長寿命化対策として、5 年に 1 回の定期点検を行う。定期点検				
	実施予定時期	令和9年度				
	対策費用 (百万円:概算)	1				

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)	0.5					0.5				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備 考
○適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。 ○予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	102	道路台帳索引番号	Z2-9	施設管理者	蕪崎市
路線名	市道穂坂 95 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	穂坂 95-1 号橋
施設の所在地		起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(6)t	橋下条件	ゴルフ場排水路

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	6.5		幅員(車道幅員)	7.0
	施設の構造等	上部工形式	床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和3年9月	
	調査結果	・床版下面のコンクリート表面が全体的に剥離しており、その中に小規模な鉄筋露出が多数発生している。施工に由来するかぶり不足や豆板、側方などから流れてくる雨水の影響等によって生じたものと考えられる。今後範囲が拡大する可能性もあるため、予防保全の観点から断面修復等により補修しておくことが望ましいが、修復箇所の再劣化や新たな鉄筋露出が発生する可能性もあるため、水切りの整備などの防水対策も合わせて行うことが望ましい。・上流終点側の路面の凹凸はパッチングにより一部補修されているが、補修が度々繰り返されているよう	
	健全性の 診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和4年度～令和12年度
	内容	5年に1回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和8年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)					0.5					
対策の内容・実施時期					定期点検					

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

※個々の施設毎に作成

橋梁一覧
(個票)

個別施設整理番号	103	道路台帳索引番号	O-18	施設管理者	荏崎市
路線名	市道藤井7号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	塩川取水水場橋
施設の所在地	北下条字宮木 905 番地 2 先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(2)t	橋下条件	水路

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	3.0		幅員(車道幅員)	2.6
	施設の構造等	上部工形式	鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—
施設の状態等の概要	点検診断日	令和 5 年 12 月				
	調査結果	路上に軽微な損傷が見られるものの主だった損傷はなく全体的には健全である。				
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。			
長寿命化計画の内容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度				
	内容	長寿命化対策として、5 年に 1 回の定期点検を行う。定期点検				
	実施予定時期	令和 10 年度				
	対策費用 (百万円:概算)	0.5				

	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	
対策費用(百万円)		0.5					0.5			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備 考
○適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。 ○予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	104	道路台帳索引番号	P-18	施設管理者	韮崎市
路線名	市道藤井7号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	岩根橋
施設の所在地	北下条字蔵之前 859番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	PC橋	型式	桁橋(T桁)
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	14t	橋下条件	塩川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)		117.5			幅員(車道幅員)		3.7		
	施設の構造等	上部工形式	桁橋(T 桁)								
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり		塗装使用の有無		別紙図面のとおり			
		支承型式	別紙図面のとおり		落橋防止の有無		別紙図面のとおり				
		橋台工形式	逆T式橋台			基礎型式					
橋脚工形式	鉄筋コンクリート壁式橋脚			海岸からの距離		—					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和 6 年 11 月									
	調査結果	舗装に段差が見られることから、維持工事での対応が望ましい。 伸縮装置の目地材にひびわれが見られることから、維持工事での対応が望ましい。 その他、軽微な損傷が見られるため、状況に応じて補修を行なうことが望ましい。									
	健全性の診断結果	I (健全)		道路橋の機能に支障が生じていない状態。							
長寿命化計画の内容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度									
	内容	5 年に1回の定期点検を行う。									
	実施予定時期	令和 11 年度									
	対策費用 (百万円:概算)	0.5									
		令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)				0.5					0.5		
対策の内容・実施時期				定期点検					定期点検		

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	105	道路台帳索引番号	O-22	施設管理者	韮崎市
路線名	市道藤井 10 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	金山橋
施設の所在地	若宮一丁目 647 番地 2 先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	PC 橋	型式	床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(14)t	橋下条件	黒沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	10.5		幅員(車道幅員)	5.2
	施設の構造等	上部工形式	床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和3年9月	
	調査結果	・上下部工に特筆すべき損傷は見られず、橋梁は概ね健全な状態を保っていると判断される。・A1 橋台の上流側の沓座に堆積した土砂は点検時の妨げとなったり、水分を含んで部材環境を悪化させる要因となるため除去しておく必要がある。・防護柵の上流終点側の支柱にボルトの脱落が見られるため維持工事による再設置が望まれる。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和4年度～令和12年度
	内容	補修工事を実施。 5年に1回の定期点検を行う。 定期点検
	実施予定時期	令和8年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)					0.5					
対策の内容・実施時期					定期点検					

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	106	道路台帳索引番号	O-21	施設管理者	荊崎市
路線名	市道藤井 17 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	清水橋
施設の所在地	南下条字水無 488 番地 2 先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	PC 橋	型式	桁橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(14)t	橋下条件	黒沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	13.1		幅員(車道幅員)	5.2
	施設の構造等	上部工形式	桁橋			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和 6 年 12 月	
	調査結果	舗装に 5mm 以上のひびわれや段差が多く見られることから、維持工事での対応が望ましい。 その他、軽微な損傷が見られるため、状況に応じて補修を行なうことが望ましい。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	5 年に 1 回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和 11 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)			0.5					0.5		
対策の内容・実施時期			定期点検					定期点検		

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

※個々の施設毎に作成

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	107	道路台帳索引番号	N-20	施設管理者	荊崎市
路線名	市道藤井 20 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	南下条中橋
施設の所在地	南下条字水無 434 番地 1 先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	PC 橋	型式	床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(9)t	橋下条件	黒沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	10.5		幅員(車道幅員)	2.8
	施設の構造等	上部工形式	床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
橋脚工形式			海岸からの距離	—		
施設の状態等の概要	点検診断日	令和 3 年 9 月				
	調査結果	・G2 桁のコンクリート表面が薄く剥離している。セメント分の溶出に伴う表面劣化や凍害によるスケーリング等が考えられる。変状は G2 桁に限定されているため経過観察とするが、内部に水分が供給されている可能性もあるため今後の進行に注意が必要である。・A2 橋台の縦壁に漏水跡が見られる。伸縮装置からではなく側面から流れた雨水が伝わって来た可能性も考えられる。この部分は鋼橋のように腐食が懸念される鋼部材はほとんどなく、また橋台縦壁の漏水跡が見られる部分にも特に損傷が見られないことから当面経過観察とする。				
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。			
長寿命化計画の内容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度				
	内容	5 年に 1 回の定期点検を行う。定期点検				
	実施予定時期	令和8年度				
	対策費用 (百万円:概算)	0.5				

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)					0.5					
対策の内容・実施時期					定期点検					

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	108	道路台帳索引番号	N-20	施設管理者	荊崎市
路線名	市道藤井 21 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	南下条上橋
施設の所在地	字南下条字山影 1801 番地 2 先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	PC 橋	型式	床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(9)t	橋下条件	黒沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	10.5		幅員(車道幅員)	5.2
	施設の構造等	上部工形式	床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和3年9月	
	調査結果	・主要部材に特筆すべき損傷は見られず概ね健全な状態を保っていると判断される。・防護柵端部の笠木にボルトのゆるみが見られるため維持工事により改善しておくことが望ましい。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和4年度～令和12年度
	内容	5年に1回の定期点検を行う。定期点検
	実施予定時期	令和8年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)					0.5					
対策の内容・実施時期					定期点検					

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	109	道路台帳索引番号	L-21	施設管理者	荏崎市
路線名	市道藤井27号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	中央公園下橋
施設の所在地	南下条字滝坂 1255番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(9)t	橋下条件	水路

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	2.1		幅員(車道幅員)	12.2
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
	橋脚工形式			海岸からの距離	—	

施設の状態等の概要	点検診断日	令和5年12月	
	調査結果	軽微な損傷はあるが、概ね健全である。	
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	5 年に 1 回の定期点検を行う。定期点検
	実施予定時期	令和 10 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)		0.5					0.5			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	110	道路台帳索引番号	N-19	施設管理者	荊崎市
路線名	市道藤井 33 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	山本橋
施設の所在地	北下条字榎田 1908 番地先	起点からの距離		建設年度	1988
供用年度	1988	種別	PC 橋	型式	床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(9)t	橋下条件	黒沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	12.5		幅員(車道幅員)	5.2
	施設の構造等	上部工形式	床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和3年9月	
	調査結果	・確認された変状はいずれも軽微なもので、橋梁は概ね健全な状態を保っていると判断される。・A1橋台の下流側前方に置かれている占拠物は、点検の妨げとなるため撤去が望まれる。	
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和4年度～令和12年度
	内容	5年に1回の定期点検を行う。定期点検
	実施予定時期	令和8年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)					0.5					
対策の内容・実施時期					定期点検					

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	111	道路台帳索引番号	M-18	施設管理者	荊崎市
路線名	市道藤井 43 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	八幡橋
施設の所在地	北下条字榎田 78 番地先	起点からの距離		建設年度	1990
供用年度	1990	種別	PC 橋	型式	床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(9)t	橋下条件	黒沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	10.9		幅員(車道幅員)	5.2
	施設の構造等	上部工形式	床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設の状態等の概要	点検診断日	令和6年12月	
	調査結果	橋台に土砂が堆積していることから維持工事にて除去することが望ましい。 舗装に段差が見られることから、維持工事での対応が望ましい。 その他、軽微な損傷が見られるため、状況に応じて補修を行なうことが望ましい。	
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	5 年に 1 回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和 11 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)			0.5					0.5		
対策の内容・実施時期			定期点検					定期点検		

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	112	道路台帳索引番号	O-16	施設管理者	荊崎市
路線名	市道藤井 44 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	絵見堂橋
施設の所在地	駒井字砂宮神 2933 番地 1 先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	桁橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(9)t	橋下条件	水路

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	8.1		幅員(車道幅員)	4.3
	施設の構造等	上部工形式	桁橋			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和6年11月	
	調査結果	床版の広範囲に剥離・鉄筋露出が見られることから、速やかに補修を行うことが望ましい。 舗装に5mm以上のひびわれが多く見られることや土砂が堆積していることから、維持工事での対応が望ましい。 その他、軽微な損傷が見られるため、状況に応じて補修を行なうことが望ましい。	
	健全性の 診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	5 年に 1 回の定期点検を行う。定期点検
	実施予定時期	令和 11 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)			0.5					0.5		
対策の内容・実施時期			定期点検					定期点検		

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	113	道路台帳索引番号	M-17	施設管理者	韮崎市
路線名	市道藤井 53 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	当麻戸一号橋
施設の所在地	字坂井字毘琶田 355 番地 1 先	起点からの距離		建設年度	1990
供用年度	1990	種別	PC 橋	型式	床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	14t	橋下条件	黒沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	11.6		幅員(車道幅員)	5.2
	施設の構造等	上部工形式	床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	逆T式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和3年9月	
	調査結果	・主要部材に特筆すべき損傷は見られず概ね健全な状態を保っていると判断される。・各橋台の縦壁に伸縮部の隙間から伝わったと思われる漏水跡が見られるが、本橋はコンクリート構造であり、唯一桁間部に鋼部材としてアンカーバーがあるが、そのほとんどの部分はコンクリート中に埋め込まれているため腐食の可能性は極めて低いと考える。今のところ漏水箇所周辺に目立った損傷もないため当面経過観察とする。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和4年度～令和12年度
	内容	5年に1回の定期点検を行う。定期点検
	実施予定時期	令和8年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)					0.5					
対策の内容・実施時期					定期点検					

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	114	道路台帳索引番号	M-17	施設管理者	荏崎市
路線名	市道藤井53号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	当麻戸 2 号橋
施設の所在地	坂井字丸山 426 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(2)t	橋下条件	宮沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	4.1		幅員(車道幅員)	4.7
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和 5 年 12 月	
	調査結果	軽微な損傷は見られるものの主だった損傷はなく全体的には健全である。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和4年度～令和12年度
	内容	5年に1回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和5年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)		0.5					0.5			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	115	道路台帳索引番号	N-16	施設管理者	葦崎市
路線名	市道藤井 54 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	鳥居橋
施設の所在地	駒井字砂宮神 2749 番地 2 先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(2)t	橋下条件	藤井堰

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	3.6		幅員(車道幅員)	4.6
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
	橋脚工形式			海岸からの距離	—	

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和5年12月	
	調査結果	軽微な損傷は見られるものの主だった損傷はなく全体的には健全である。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	5 年に 1 回の定期点検を行う。定期点検
	実施予定時期	令和 10 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)		0.5					0.5			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	116	道路台帳索引番号	K-16	施設管理者	荊崎市
路線名	市道藤井 63 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	天神橋
施設の所在地	駒井字天神前 597 番地 1 先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(2)t	橋下条件	JR中央本線

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	23.2		幅員(車道幅員)	3.2
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	逆T式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設の状態等の概要	点検診断日	令和4年11月	
	調査結果	主桁のひびわれは幅が大きい、補修する必要がある。 舗装の損傷にはパッチングで対応し、経過観察を行うなかで損傷が進行するようであれば、打ち替えを検討することが望ましい。	
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和４年度 ～ 令和１２年度
	内容	５年に１回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和９年度
	対策費用 (百万円:概算)	1

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)	0.5					0.5				
対策の内容・実施時期	定期点検					定期点検				

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	117	道路台帳索引番号	L-15	施設管理者	韮崎市
路線名	市道藤井 70 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	駒井上野坂下一号橋
施設の所在地	字駒井字宮ノ前 1356 番地 1 先	起点からの距離		建設年度	1990
供用年度	1990	種別	PC 橋	型式	床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	9t	橋下条件	黒沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	11.5				幅員(車道幅員)		5.2		
	施設の構造等	上部工形式	床版橋								
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり		塗装使用の有無		別紙図面のとおり			
		支承型式	別紙図面のとおり		落橋防止の有無		別紙図面のとおり				
		橋台工形式	逆T式橋台				基礎型式				
橋脚工形式					海岸からの距離		—				
施設の状態等の概要	点検診断日	令和3年9月									
	調査結果	・主要部材に特筆すべき損傷は見られず概ね健全な状態を保っていると判断される。・A2橋台のバラペット後方に生じている舗装の段差は、車両の走行性を阻害したり、橋梁構造に過度な衝撃荷重を与える原因となるため、パッチング等で補修しておくことが望ましい。・上流側の排水ますの土砂詰まりは、路面排水の滞水原因となるため維持工事により改善しておくことが望ましい。									
	健全性の診断結果	I (健全)		道路橋の機能に支障が生じていない状態。							
長寿命化計画の内容	計画期間	令和4年度～令和12年度									
	内容	5年に1回の定期点検を行う。									
	実施予定時期	令和8年度									
	対策費用 (百万円:概算)	0.5									
		令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	
対策費用(百万円)						0.5					
対策の内容・実施時期						定期点検					
備 考											
○適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。 ○予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。											

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	118	道路台帳索引番号	O-19	施設管理者	荏崎市
路線名	市道藤井 78 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	藤井 78-1 号橋
施設の所在地	字北下条字枇杷塚 1125 番地 13 先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(4)t	橋下条件	水路

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	2.7		幅員(車道幅員)	7.4
	施設の構造等	上部工形式	鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—
施設の状態等の概要	点検診断日	令和 5 年 12 月				
	調査結果	路上に軽微な損傷は見られるものの、その他に損傷はなく健全である。				
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。			
長寿命化計画の内容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度				
	内容	5 年に 1 回の定期点検を行う。				
	実施予定時期	令和 10 年度				
	対策費用 (百万円:概算)	0.5				

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)		0.5					0.5			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	119	道路台帳索引番号	O-20	施設管理者	荏崎市
路線名	市道藤井 78 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	藤井 78-2 号橋
施設の所在地	北下条字枇杷塚 1125 番地 26 先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(4)t	橋下条件	水路

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	2.7		幅員(車道幅員)	4.6
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和 5 年 12 月	
	調査結果	軽微な損傷は見られるものの主だった損傷はなく全体的には健全である。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	5 年に 1 回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和 10 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)		0.5					0.5			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	121	道路台帳索引番号	M-18	施設管理者	荏崎市
路線名	市道藤井 97 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	藤井 97-1 号橋
施設の所在地	北下条字山本 2013 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	BOX	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)		橋下条件	水路

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	4.5		幅員(車道幅員)	5.4
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	鉄筋コンクリート BOX		基礎型式	
	橋脚工形式			海岸からの距離	—	

施設の状態等の概要	点検診断日	令和5年12月	
	調査結果	特に損傷は見られず健全である。	
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	5 年に 1 回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和 10 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)		0.5					0.5			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	122	道路台帳索引番号	L-13	施設管理者	荊崎市
路線名	市道中田 10 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	金山橋
施設の所在地	中条字山本 275 番地先	起点からの距離		建設年度	1992
供用年度	1992	種別	PC 橋	型式	床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	9t	橋下条件	黒沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	10.7		幅員(車道幅員)	6.2
	施設の構造等	上部工形式	床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	逆T式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和7年 11 月	
	調査結果	全般的に損傷は軽微で、次回点検までに補修を行う必要性は低いと考える。ただし、路面の凹凸については維持工事による対応を行うことが望ましい。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	5 年に 1 回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和 12 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)				0.5					0.5	
対策の内容・実施時期				定期点検					定期点検	

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	124	道路台帳索引番号	L-12	施設管理者	荏崎市
路線名	市道中田 18 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	榎田 1 号橋
施設の所在地	中条字金山 382 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	PC 橋	型式	床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)		橋下条件	黒沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	8.5		幅員(車道幅員)	4.8
	施設の構造等	上部工形式	床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	逆T式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和3年9月	
	調査結果	・主要部材に特筆すべき損傷は見られず概ね健全な状態を保っていると判断される。・A1橋台のバラペット後方に生じている舗装の段差は、車両の走行性を阻害したり、橋梁構造に過度な衝撃荷重を与える原因となるため、パッチング等で補修しておくことが望ましい。・路面の地覆脇に堆積している土砂は路面排水の滞水原因となり、下方に水分を供給する要因になるため維持工事による定期的な管理が望まれる。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	5 年に 1 回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和8年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)					0.5					
対策の内容・実施時期					定期点検					

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	126	道路台帳索引番号	K-11	施設管理者	荊崎市
路線名	市道中田 25 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	藤塚橋
施設の所在地	中条字藤塚 2941 番地 1 先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)		橋下条件	水路

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	4.0		幅員(車道幅員)	4.9
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和5年12月	
	調査結果	床版の上流側に漏水の跡が見られる。取付の護岸工に漏水が見られるが、橋梁本体には、軽微な損傷があるものの、概ね健全である。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	長寿命化対策として、5 年に 1 回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和 10 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)		0.5					0.5			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	129	道路台帳索引番号	M-11	施設管理者	葦崎市
路線名	市道中田 33 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	後地橋
施設の所在地	中条字後地 1452 番地 2 先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(1)t	橋下条件	水路

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	3.5		幅員(車道幅員)	3.1
	施設の構造等	上部工形式	床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設の状態等の概要	点検診断日	令和3年9月	
	調査結果	・床版に軽微な欠損と豆板が見られる程度で、橋梁は比較的健全な状態を保っていると判断される。	
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和4年度～令和12年度
	内容	5年に1回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和8年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)					0.5					
対策の内容・実施時期					定期点検					

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

※個々の施設毎に作成

橋梁一覧
(個票)

個別施設整理番号	132	道路台帳索引番号	K-12	施設管理者	荏崎市
路線名	市道中田 51 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	中田 51-1 号橋
施設の所在地	中条字長林 3717 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	鋼橋	型式	床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(14)t	橋下条件	水路

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	9.0		幅員(車道幅員)	5.7	
	施設の構造等	上部工形式	床版橋				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり		塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり		落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	重力式橋台			基礎型式	
橋脚工形式				海岸からの距離	—		
施設の状態等の概要	点検診断日	令和 3 年 12 月					
	調査結果	・主桁や横桁の塗装は全体的には変色と密度の小さい点錆が見られる程度であるが、終点側の桁端部下フランジには局部的な腐食が見られ、膨張した錆と若干の板厚減少も見られる。また、支承も全て腐食が進行しており、特に終点側では層状に膨張して原型が崩れ始めている。上記腐食はいずれも狭隘な沓座環境に加え、伸縮部からの漏水と沓座の土砂堆積の影響を受けて劣化が進行したものと考えられる。本件では早期に伸縮部の止水対策と沓座の土砂清掃を行い、腐食箇所の補修を進めておくことが望ましいが、伸縮部などから流れた漏水は桁や張出部を伝わっ					
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度					
	内容	5 年に 1 回の定期点検を行う。					
	実施予定時期	令和8年度					
	対策費用 (百万円:概算)	0.5					

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)					0.5					
対策の内容・実施時期					定期点検					

備 考
○適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。 ○予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	133	道路台帳索引番号	L-10	施設管理者	韮崎市
路線名	市道中田 52 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	中田 52－1 号橋
施設の所在地	中条字杉木 1862 番地 2 先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(14)t	橋下条件	藤井堰

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	2.3		幅員(車道幅員)	9.5
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設の状態等の概要	点検診断日	令和5年12月	
	調査結果	A1A2の上流側の防護柵の基礎に欠損が見られるので、予防保全の観点から、早期に補修する必要がある。	
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	5 年に 1 回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和 10 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)		0.5					0.5			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	135	道路台帳索引番号	I-12	施設管理者	荏崎市
路線名	市道中田 21 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	新府橋
施設の所在地	中条字日影林 3182 番地先	起点からの距離		建設年度	2011
供用年度	2011	種別	RC 橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	A活荷重	橋下条件	JR中央本線

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	32.5				幅員(車道幅員)	7.0			
	施設の構造等	上部工形式									
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり		塗装使用の有無		別紙図面のとおり			
		支承型式	別紙図面のとおり		落橋防止の有無		別紙図面のとおり				
		橋台工形式	逆T式橋台				基礎型式				
橋脚工形式					海岸からの距離		—				
施設の状態等の概要	点検診断日	令和4年11月									
	調査結果	壁高欄全体にひびわれがみられ、局部的に遊離石灰の析出もみられるが、ひびわれ幅は比較的小さいため経過観察を行い、必要に応じて補修する必要がある。 排水ますの土砂詰まりは維持工事に対応する必要がある。									
	健全性の診断結果	I (健全)		道路橋の機能に支障が生じていない状態。							
長寿命化計画の内容	計画期間	令和4年度～令和12年度									
	内容	補修工事を実施。 5年に1回の定期点検を行う。									
	実施予定時期	令和9年度									
	対策費用 (百万円:概算)	1									
		令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	
対策費用(百万円)		0.5					0.5				
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検				
備考											
○適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。 ○予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。											

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	136	道路台帳索引番号	F-8	施設管理者	荊崎市
路線名	市道穴山 17 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	滝沢川上橋
施設の所在地	穴山町字下新田 8646 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(9)t	橋下条件	滝沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	4.6		幅員(車道幅員)	3.9
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和 5 年 12 月	
	調査結果	軽微な損傷は見られるものの主だった損傷はなく全体的には健全である。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	補修工事を実施。 5 年に 1 回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和 10 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)		0.5					0.5			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	137	道路台帳索引番号	F-8	施設管理者	荊崎市
路線名	市道穴山 35 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	滝沢川下橋
施設の所在地	穴山町字下新田 8621 番地 1 先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(9)t	橋下条件	滝沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	2.9		幅員(車道幅員)	4.6
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
	橋脚工形式			海岸からの距離	—	

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和 5 年 12 月	
	調査結果	軽微な損傷は見られるものの主だった損傷はなく全体的には健全である。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	5 年に 1 回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和 10 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)		0.5					0.5			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	138	道路台帳索引番号	H-4	施設管理者	韮崎市
路線名	市道穴山 37 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	久保橋
施設の所在地	穴山町字窪林 1623 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	BOX	型式	溝橋(カルバート)
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(9)t	橋下条件	久保沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	3.1		幅員(車道幅員)	3.5
	施設の構造等	上部工形式	溝橋(カルバート)			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	鉄筋コンクリート BOX		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和7年11月	
	調査結果	全般的に損傷は軽微で、次回点検までに補修を行う必要性は低いと考える。ただし、路面の凹凸に対しては維持工事による対応が望ましい。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	5 年に 1 回の定期点検を行う。
	実施予定時期	令和 12 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)				0.5					0.5	
対策の内容・実施時期				定期点検					定期点検	

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	139	道路台帳索引番号	F-11	施設管理者	韮崎市
路線名	市道穴山 49 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	三ツ石下橋
施設の所在地	穴山町字三ツ石 8878 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	PC 橋	型式	床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(6)t	橋下条件	水路

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	10.4		幅員(車道幅員)	2.6
	施設の構造等	上部工形式	床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和3年9月	
	調査結果	・主要部材に特筆すべき損傷は見られず概ね健全な状態を保っていると判断される。・起終点にある鋼製の高欄に広く表面錆が広がっているため、美観、防錆等の観点から塗り替えが望ましい。・路面の地覆脇に堆積している土砂は路面排水の滞水原因となり、下方に水分を供給する要因になるため維持工事による定期的な管理が望まれる。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和4年度～令和12年度
	内容	
	実施予定時期	令和8年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)					0.5					
対策の内容・実施時期					定期点検					

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	140	道路台帳索引番号	G-13	施設管理者	蕪崎市
路線名	市道穴山 49 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	祖母石上橋
施設の所在地	上祖母石字姥石	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(1)t	橋下条件	水路

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)		2.8			幅員(車道幅員)		2.5		
	施設の構造等	上部工形式	床版橋								
			鋼製(使用鋼材)		別紙図面のとおり		塗装使用の有無		別紙図面のとおり		
		支承型式		別紙図面のとおり		落橋防止の有無		別紙図面のとおり			
		橋台工形式	重力式橋台			基礎型式					
橋脚工形式				海岸からの距離			—				
施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年11月									
	調査結果	全般的に損傷は軽微で、次回点検までに補修を行う必要性は低いと考える。ただし、舗装の土砂堆積については維持工事による対応が望ましい。									
	健全性の診断結果	Ⅰ (健全)		道路橋の機能に支障が生じていない状態。							
長寿命化計画の内容	計画期間	令和4年度～令和12年度									
	内容	5年に1回の定期点検を行う。									
	実施予定時期	令和12年度									
	対策費用 (百万円:概算)	0.5									
		令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	
対策費用(百万円)					0.5					0.5	
対策の内容・実施時期					定期点検					定期点検	

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	141	道路台帳索引番号	H-15	施設管理者	蕪崎市
路線名	市道穴山 49 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	祖母石中橋
施設の所在地	上祖母石字高砂	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(0.9)t	橋下条件	水路

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)		3.6			幅員(車道幅員)		2.4		
	施設の構造等	上部工形式	床版橋								
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり		塗装使用の有無		別紙図面のとおり			
		支承型式	別紙図面のとおり		落橋防止の有無		別紙図面のとおり				
		橋台工形式	重力式橋台			基礎型式					
橋脚工形式				海岸からの距離		—					
施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年11月									
	調査結果	全般的に損傷は軽微であるものの、河床低下による下部工の根入れ不足が懸念されるため対策が必要である。各部材に対しては次回点検までに補修を行う必要性は低いと考える。									
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)		道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。							
長寿命化計画の内容	計画期間	令和4年度～令和12年度									
	内容	5年に1回の定期点検を行う。									
	実施予定時期	令和12年度									
	対策費用 (百万円:概算)	0.5									
		令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	
対策費用(百万円)					0.5					0.5	
対策の内容・実施時期					定期点検					定期点検	

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	142	道路台帳索引番号	F-10	施設管理者	荊崎市
路線名	市道穴山 51 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	穴山 51-1 号橋
施設の所在地	穴山町字三ツ石 8872 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(9)t	橋下条件	水路

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	2.6				幅員(車道幅員)	5.6			
	施設の構造等	上部工形式	床版橋								
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり		塗装使用の有無		別紙図面のとおり			
		支承型式	別紙図面のとおり		落橋防止の有無		別紙図面のとおり				
		橋台工形式	重力式橋台				基礎型式				
橋脚工形式					海岸からの距離		—				
施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年11月									
	調査結果	全般的に損傷は軽微で、次回点検までに補修を行う必要性は低いと考える。ただし、路面の凹凸は維持工事による対応が望ましい。									
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。								
長寿命化計画の内容	計画期間	令和4年度～令和12年度									
	内容										
	実施予定時期	令和12年度									
	対策費用 (百万円:概算)	0.5									
		令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	
対策費用(百万円)					0.5					0.5	
対策の内容・実施時期					定期点検					定期点検	
備考											
○適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。 ○予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。											

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	143	道路台帳索引番号	D-3	施設管理者	荊崎市
路線名	市道円野 3 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	下河原橋
施設の所在地	上円井字下河原 1690 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	BOX	型式	溝橋(カルバート)
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(14)t	橋下条件	徳島堰

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	5.5		幅員(車道幅員)	17.9
	施設の構造等	上部工形式	溝橋(カルバート)			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	鉄筋コンクリート BOX		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和7年11月	
	調査結果	全般的に損傷は軽微で、次回点検までに補修を行う必要性は低いと考える。ただし、防護柵の変形に対しては維持工事による対応が望ましい。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	
	実施予定時期	令和 12 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)				0.5					0.5	
対策の内容・実施時期				定期点検					定期点検	

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	144	道路台帳索引番号	C-7	施設管理者	荊崎市
路線名	市道円野5号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	仁反田上橋
施設の所在地	下円井字竹の後 194番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	BOX	型式	溝橋(カルバート)
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(14)t	橋下条件	水路

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	3.4		幅員(車道幅員)	9.8
	施設の構造等	上部工形式	溝橋(カルバート)			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	鉄筋コンクリート BOX		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設の状態等の概要	点検診断日	令和7年11月	
	調査結果	全般的に損傷は軽微で、次回点検までに補修を行う必要性は低いと考える。ただし、路面の凹凸に対しては維持工事による対応が望ましい。	
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	
	実施予定時期	令和 12 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)				0.5					0.5	
対策の内容・実施時期				定期点検					定期点検	

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	145	道路台帳索引番号	C-7	施設管理者	荊崎市
路線名	市道円野5号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	仁反田下橋
施設の所在地	下円井字竹の後 1519番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	PC橋	型式	床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(9)t	橋下条件	水路

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	6.0		幅員(車道幅員)	4.0
	施設の構造等	上部工形式	床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設の状態等の概要	点検診断日	令和3年9月	
	調査結果	・主要部材に特筆すべき損傷は見られず概ね健全な状態を保っていると判断される。・上下流の地覆にひびわれ等の変状が見られるが、いずれも局所的で、前回点検から目立った変化も見られないため経過観察とする。・A2橋台の堅壁に伸縮部から伝わったと思われる漏水跡が見られるが、本橋はコンクリート構造であり、唯一桁間部に鋼部材としてアンカーバーがあるが、そのほとんどの部分はコンクリート中に埋め込まれているため腐食の可能性は極めて低いと考える。今のところ漏水箇所の周辺に目立った損傷も見られないため当面経過観察とする。	
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和4年度～令和12年度
	内容	
	実施予定時期	令和8年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)					0.5					
対策の内容・実施時期					定期点検					

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	151	道路台帳索引番号	C-4	施設管理者	荊崎市
路線名	市道円野 24 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	連合堰上橋
施設の所在地	上円井字島崎 160 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(9)t	橋下条件	連合堰

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	4.6		幅員(車道幅員)	4.6
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
	橋脚工形式			海岸からの距離	—	

施設の状態等の概要	点検診断日	令和5年12月	
	調査結果	特に損傷は見られず健全である。	
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	
	実施予定時期	令和 10 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)		0.5					0.5			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	152	道路台帳索引番号	C-8	施設管理者	韮崎市
路線名	市道円野 27 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	下円井橋
施設の所在地	下円井字東幅 1559 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(2)t	橋下条件	水路

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	2.5		幅員(車道幅員)	8.3
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
	橋脚工形式			海岸からの距離	—	

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和5年12月	
	調査結果	軽微な損傷は見られるものの主だった損傷はなく全体的には健全である。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和4年度～令和12年度
	内容	
	実施予定時期	令和5年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)		0.5					0.5			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	153	道路台帳索引番号	D-8	施設管理者	荊崎市
路線名	市道円野 28 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	東幅橋
施設の所在地	下円井字東幅 1617 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)		橋下条件	徳島堰

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	4.2		幅員(車道幅員)	6.4
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	逆T式橋台		基礎型式	
	橋脚工形式			海岸からの距離	—	

施設の 状態等 の概要	点検診断日	令和5年12月	
	調査結果	床版に漏水・遊離石灰が見られ、部分的にはつららも確認できることから防水機能の強化が必要である。	
	健全性の 診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	
	実施予定時期	令和 10 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)		0.5					0.5			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	154	道路台帳索引番号	D-11	施設管理者	菰崎市
路線名	市道円野 29 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	瀬戸田橋
施設の所在地	入戸野字瀬戸田 27 番地 2 先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(0.9)t	橋下条件	徳島堰

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	3.7		幅員(車道幅員)	3.3
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和5年12月	
	調査結果	軽微な損傷は見られるものの主だった損傷はなく全体的には健全である。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和4年度～令和12年度
	内容	
	実施予定時期	令和5年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)		0.5					0.5			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	155	道路台帳索引番号	D-10	施設管理者	荊崎市
路線名	市道円野 29 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	北原橋
施設の所在地	入戸野字半縄田 350 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(9)t	橋下条件	徳島堰

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	5.1		幅員(車道幅員)	4.8
	施設の構造等	上部工形式	床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	逆T式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和3年12月	
	調査結果	・確認された変状はいずれも軽微なもので、橋梁は概ね健全な状態を保っていると判断される。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和4年度～令和12年度
	内容	
	実施予定時期	令和8年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)					0.5					
対策の内容・実施時期					定期点検					

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	156	道路台帳索引番号	D-11	施設管理者	菰崎市
路線名	市道円野 32 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	北山畑下橋
施設の所在地	入戸野字北山畑 796 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(0.9)t	橋下条件	徳島堰

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	3.8		幅員(車道幅員)	4.3
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
	橋脚工形式			海岸からの距離	—	

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和5年12月	
	調査結果	A1 橋台に幅(1.3mm)の大きいひびわれが見られるため充填等の対応が必要である。	
	健全性の 診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	
	実施予定時期	令和 10 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)		0.5					0.5			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。
- 令和5年度補修完了

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	157	道路台帳索引番号	D-11	施設管理者	荊崎市
路線名	市道円野 32 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	北山畑上橋
施設の所在地	入戸野字北山畑 756 番地 2 先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(1)t	橋下条件	入戸野沢

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	3.8		幅員(車道幅員)	5.8
	施設の構造等	上部工形式	床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—
施設の状態等の概要	点検診断日	令和 5 年 12 月				
	調査結果	A2 橋台(練石積み)の基礎部に洗堀がみられ、大きな欠損(石抜け)がみられたが、補修済みである。				
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。			
長寿命化計画の内容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度				
	内容					
	実施予定時期	令和 10 年度				
	対策費用 (百万円:概算)	5				

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)		5.5					0.5			
対策の内容・実施時期		補修点検					定期点検			

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	158	道路台帳索引番号	E-11	施設管理者	荊崎市
路線名	市道円野 33 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	上河原橋
施設の所在地	入戸野字下河原 1403 番地 1 先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(6)t	橋下条件	水路

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	4.5		幅員(車道幅員)	4.3
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
	橋脚工形式			海岸からの距離	—	

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和 5 年 12 月	
	調査結果	軽微な損傷は見られるものの主だった損傷はなく全体的には健全である。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	
	実施予定時期	令和 10 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)		0.5					0.5			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	159	道路台帳索引番号	F-16	施設管理者	荊崎市
路線名	市道清哲 11 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	山田橋
施設の所在地	青木字上北原 2578 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(14)t	橋下条件	徳島堰

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	6.5		幅員(車道幅員)	6.9
	施設の構造等	上部工形式	床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	逆T式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和4年2月	
	調査結果	・床版下面の側端部や橋台の前面に生じている表面剥離などの変状は、側方などから流れてくる雨水の影響で生じたものと推察される。前回点検から目立った変化も見られないため経過観察とするが、予防保全的な対策として水切りの設置等を事前に行っておくと橋梁の長寿命化に繋がると考えられる。・路面の地覆脇に見られる土砂堆積は路面排水の滞水原因となり、下方に水分を供給する要因になるため維持工事による定期的な管理が望まれる。	
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和4年度～令和12年度
	内容	
	実施予定時期	令和8年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)					0.5					
対策の内容・実施時期					定期点検					

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	160	道路台帳索引番号	F-17	施設管理者	荊崎市
路線名	市道清哲 12 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	上北原橋
施設の所在地	青木字上北原 2521 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(9)t	橋下条件	徳島堰

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	5.0		幅員(車道幅員)	6.0
	施設の構造等	上部工形式	床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	逆T式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和3年12月	
	調査結果	・確認された変状はいずれも局所的なもので、前回点検から目立った変化も無いため経過観察とする。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和4年度～令和12年度
	内容	
	実施予定時期	令和8年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)					0.5					
対策の内容・実施時期					定期点検					

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	161	道路台帳索引番号	H-21	施設管理者	荊崎市
路線名	市道清哲 27 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	原橋
施設の所在地	青木字原 2075 番 地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(9)t	橋下条件	徳島堰

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	4.0		幅員(車道幅員)	7.8
	施設の構造等	上部工形式	床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和 5 年 12 月	
	調査結果	軽微な損傷は見られるものの主だった損傷はなく全体的には健全である。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	
	実施予定時期	令和 10 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)		0.5					0.5			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

※個々の施設毎に作成

橋梁一覧
(個票)

個別施設整理番号	162	道路台帳索引番号	I-23	施設管理者	荏崎市
路線名	市道清哲 31 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	神ノ木橋
施設の所在地	樋ノ口字中西 355 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋・BOX	型式	床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(9)t	橋下条件	徳島堰

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	5.9		幅員(車道幅員)	6.5	
	施設の構造等	上部工形式	床版橋				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり		塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり		落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	鉄筋コンクリート BOX 逆T式橋台			基礎型式	
橋脚工形式				海岸からの距離	—		
施設の状態等の概要	点検診断日	令和4年1月					
	調査結果	・上流側のボックス頂版部と下流側の RC 床版部ともに軽微な表面剥離や鉄筋露出が見られるが、前回点検から目立った変化はないため経過観察とする。・RC 製の防護柵に散見する鉄筋露出は予防保全の観点から補修が望ましい。・防護柵の支柱基部に生じている地覆の欠損は、衝突荷重に対する耐荷力保持のため補修が望ましい。					
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。				
長寿命化計画の内容	計画期間	令和4年度 ～ 令和12年度					
	内容						
	実施予定時期	令和8年度					
	対策費用 (百万円:概算)	0.5					

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)					0.5					
対策の内容・実施時期					定期点検					

備 考
○適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。 ○予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

※個々の施設毎に作成

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	163	道路台帳索引番号	H-24	施設管理者	韮崎市
路線名	市道清哲 31 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	水上橋
施設の所在地	水上字家の前 108 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	木橋	型式	床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(2)t	橋下条件	堅沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	22.6		幅員(車道幅員)	2.9
	施設の構造等	上部工形式	床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	重力式橋台 丸太木橋台		基礎型式	
橋脚工形式			海岸からの距離	—		
施設の状態等の概要	点検診断日	令和 4 年 1 月				
	調査結果	・主部材に使用されている丸太全体に干割れなどの経年劣化が見られ、橋台や橋脚上の支点部では主桁や受け台の一部が腐朽し崩れかけている。A1 側では単管パイプで一部桁を支えるように応急処置がされているが心許ない。支点部の腐朽はまだ全体には及んでいないため緊急を要する状態ではないと判断するが、P2 上部の腐朽は進行しており、今後路面の段差や傾き、最悪の場合は桁の崩落などに繋がる恐れがあるため早期の対策が必要である。なお、現地には制限荷重 2 トンの看板があるが、それを無視して通過している車両も見受けられたため早急の補修と				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。			
長寿命化計画の内容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度				
	内容					
	実施予定時期	令和8年度				
	対策費用 (百万円:概算)	0.5				

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)					0.5					
対策の内容・実施時期					定期点検					

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	164	道路台帳索引番号	I-24	施設管理者	荊崎市
路線名	市道清哲 35 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	堅沢橋
施設の所在地	武田字西海道 49 番地 2 先	起点からの距離		建設年度	1979
供用年度	1979	種別	鋼橋	型式	床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	14t	橋下条件	堅沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)		23.1			幅員(車道幅員)		5.0		
	施設の構造等	上部工形式	床版橋								
			鋼製(使用鋼材)		別紙図面のとおり		塗装使用の有無		別紙図面のとおり		
		支承型式		別紙図面のとおり		落橋防止の有無		別紙図面のとおり			
		橋台工形式		重力式橋台			基礎型式				
橋脚工形式					海岸からの距離		—				
施設の状態等の概要	点検診断日	令和3年10月									
	調査結果	・A1(可動)側の G1 桁端部と胸壁との遊間が僅かで、夏季には桁が胸壁に接触していることが予想される。また、この上部にある張出床版部と胸壁は既に衝突していて、橋軸方向の変位が完全に拘束された状態である。A2 側の固定支承には既に支承の傾きやモルタルの欠損が生じており、A1 側の遊間異常との関連が疑われる状況であり、今後の進行が懸念される。・上記遊間の異常に関連する損傷は、部材機能の性能低下を引き起こす可能性がある。中でも特に問題となっているのは起点下流側の床版と胸壁の接触であると考えられるため、原因の特定の後、									
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)		道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。							
長寿命化計画の内容	計画期間	令和4年度 ～ 令和12年度									
	内容										
	実施予定時期	令和8年度									
	対策費用 (百万円:概算)	0.5									
		令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	
対策費用(百万円)						0.5					
対策の内容・実施時期						定期点検					

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	165	道路台帳索引番号	I-25	施設管理者	荊崎市
路線名	市道神山 11 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	柳田橋
施設の所在地	北宮地字南反保 633 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(9)t	橋下条件	徳島堰

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	3.7		幅員(車道幅員)	5.4
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	逆T式橋台		基礎型式	
	橋脚工形式			海岸からの距離	—	

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和 5 年 12 月	
	調査結果	軽微な損傷は見られるものの主だった損傷はなく全体的には健全である。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	
	実施予定時期	令和 10 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)		0.5					0.5			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	166	道路台帳索引番号	I-26	施設管理者	荊崎市
路線名	市道神山 16 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	神山 16-1 号橋
施設の所在地	鍋山字城山 1054 番地 1 先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(0.9)t	橋下条件	八幡沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	4.2		幅員(車道幅員)	4.2
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	逆T式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和 5 年 12 月	
	調査結果	地覆に大きな欠損、鉄筋露出をともなう剥離が見られるため修復が必要である。床版に面積の大きい剥離・鉄筋露出、うきが見られ、鉄筋も腐食が進行しているため断面修復等が必要である。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	
	実施予定時期	令和 10 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)		0.5					0.5			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	167	道路台帳索引番号	I-26	施設管理者	荏崎市
路線名	市道神山 19 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	妻神橋
施設の所在地	北宮地字妻神 984 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(9)t	橋下条件	八幡沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	4.2		幅員(車道幅員)	7.6
	施設の構造等	上部工形式	鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	重力式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—
施設の状態等の概要	点検診断日	令和5年12月				
	調査結果	床版に面積の大きい剥離・鉄筋露出が見られ、鉄筋も腐食が進行しているため断面修復等の対応が必要である。				
	健全性の診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。			
長寿命化計画の内容	計画期間	令和4年度～令和12年度				
	内容					
	実施予定時期	令和10年度				
	対策費用 (百万円:概算)	0.5				

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)		0.5					0.5			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	168	道路台帳索引番号	J-26	施設管理者	荏崎市
路線名	市道神山 22 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	古山寺橋
施設の所在地	鍋山字上小路 1770 番地 1 先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)		橋下条件	徳島堰

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	4.1				幅員(車道幅員)	5.0			
	施設の構造等	上部工形式									
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり		塗装使用の有無		別紙図面のとおり			
		支承型式	別紙図面のとおり		落橋防止の有無		別紙図面のとおり				
		橋台工形式	逆T式橋台				基礎型式				
橋脚工形式					海岸からの距離		—				
施設の状態等の概要	点検診断日	令和5年12月									
	調査結果	軽微な損傷は見られるものの主だった損傷はなく全体的には健全である。									
	健全性の診断結果	Ⅰ (健全)		道路橋の機能に支障が生じていない状態。							
長寿命化計画の内容	計画期間	令和4年度～令和12年度									
	内容										
	実施予定時期	令和10年度									
	対策費用 (百万円:概算)	0.5									
		令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	
対策費用(百万円)			0.5					0.5			
対策の内容・実施時期			定期点検					定期点検			
備考											
○適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。 ○予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。											

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	169	道路台帳索引番号	J-27	施設管理者	菰崎市
路線名	市道神山 24 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	上小路下橋
施設の所在地	鍋山字上小路 1780 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(0.9)t	橋下条件	徳島堰

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	3.8		幅員(車道幅員)	4.9
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	逆T式橋台		基礎型式	
	橋脚工形式			海岸からの距離	—	

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和5年12月	
	調査結果	軽微な損傷は見られるものの主だった損傷はなく全体的には健全である。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	
	実施予定時期	令和 10 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)		0.5					0.5			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	170	道路台帳索引番号	K-26	施設管理者	荊崎市
路線名	市道神山 25 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	白沢下橋
施設の所在地	鍋山字押茂 1378 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	PC 橋	型式	床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(9)t	橋下条件	白沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	11.3				幅員(車道幅員)		5.2		
	施設の構造等	上部工形式	床版橋								
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり		塗装使用の有無		別紙図面のとおり			
		支承型式	別紙図面のとおり		落橋防止の有無		別紙図面のとおり				
		橋台工形式	逆T式橋台				基礎型式				
橋脚工形式					海岸からの距離		—				
施設の状態等の概要	点検診断日	令和3年9月									
	調査結果	・主要部材に特筆すべき損傷は見られず概ね健全な状態を保っていると判断される。・A2橋台の縦壁に見られる漏水跡は、伸縮装置あるいは側面から流れた雨水が伝わって来たものと推察される。今のところ漏水箇所周辺に目立った損傷も見られないため当面は経過観察とする。・排水ますの土砂詰まりは、路面排水の滞水原因となり、部材劣化を助長する要因となるため維持工事により改善しておくことが望ましい。									
	健全性の診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。								
長寿命化計画の内容	計画期間	令和4年度～令和12年度									
	内容										
	実施予定時期	令和8年度									
	対策費用 (百万円:概算)	0.5									
		令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	
対策費用(百万円)						0.5					
対策の内容・実施時期						定期点検					
備 考											
○適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。 ○予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。											

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	171	道路台帳索引番号	J-28	施設管理者	荊崎市
路線名	市道神山 29 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	上小路上橋
施設の所在地	鍋山字山田 2037 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	鋼橋	型式	桁橋(I 桁)
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(9)t	橋下条件	白沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	9.4		幅員(車道幅員)	3.5
	施設の構造等	上部工形式	桁橋(I 桁)			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	逆T式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和7年11月	
	調査結果	主桁・横桁・支承部に見られる腐食・防食機能の劣化は、板厚減少には至っていないが、今後の進行を見据えて予防保全の観点から補修が望ましい。ただし、路面の凹凸に対しては維持工事による対応が望ましい。	
	健全性の 診断結果	Ⅱ (予防保全段階)	道路橋の機能に支障が生じていないが、予防保全の観点から措置を講じることが望ましい状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	
	実施予定時期	令和 12 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)				0.5					0.5	
対策の内容・実施時期				定期点検					定期点検	

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	172	道路台帳索引番号	K-28	施設管理者	荏崎市
路線名	市道神山 31 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	山田橋
施設の所在地	鍋山字山田 2063 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(1)t	橋下条件	徳島堰

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	3.5		幅員(車道幅員)	5.0
	施設の構造等	上部工形式				
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
		支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり	
		橋台工形式	逆T式橋台		基礎型式	
	橋脚工形式			海岸からの距離	—	

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和 5 年 12 月	
	調査結果	軽微な損傷は見られるものの主だった損傷はなく全体的には健全である。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和 4 年度 ～ 令和 12 年度
	内容	
	実施予定時期	令和 10 年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)		0.5					0.5			
対策の内容・実施時期		定期点検					定期点検			

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。

橋梁一覽
(個票)

個別施設整理番号	173	道路台帳索引番号	L-25	施設管理者	荏崎市
路線名	市道神山 36 号線	道路種類及び区分	その他路線	橋梁名	御堂橋
施設の所在地	鍋山字釜無河原 151 番地先	起点からの距離		建設年度	不明
供用年度	不明	種別	RC 橋	型式	床版橋
道路橋示方書	不明	橋格(設計荷重)	(14)t	橋下条件	白沢川

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	10.1		幅員(車道幅員)	7.2
	施設の構造等	上部工形式	床版橋			
			鋼製(使用鋼材)	別紙図面のとおり	塗装使用の有無	別紙図面のとおり
			支承型式	別紙図面のとおり	落橋防止の有無	別紙図面のとおり
		橋台工形式	逆T式橋台		基礎型式	
		橋脚工形式			海岸からの距離	—

施設 の 状 態 等 の 概 要	点検診断日	令和3年9月	
	調査結果	・確認された変状はいずれも局部的かつ軽微なもので、前回点検から目立った変化も無いため経過観察とする。	
	健全性の 診断結果	I (健全)	道路橋の機能に支障が生じていない状態。

長 寿 命 化 計 画 の 内 容	計画期間	令和4年度～令和12年度
	内容	
	実施予定時期	令和8年度
	対策費用 (百万円:概算)	0.5

	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年	令和 8 年	令和 9 年	令和 10 年	令和 11 年	令和 12 年	
対策費用(百万円)					0.5					
対策の内容・実施時期					定期点検					

備考

- 適切な補修を計画的に実施することで、橋梁の安全性を確保できる。
- 予算の平準化により、厳しい予算制約の中で計画的な維持管理が可能となる。